

データ移行方法

藤木健士*

センターではIBMホストシステム上に存在するファイル(MVSではデータセットと呼ぶ)をユーザ自身で新システムに移行するためのツールを開発した。このツールを使用すると、IBMシステム上の漢字を含まないテキスト形式のファイル(プログラムおよびデータ)を新システムに転送することができる。ただし、この移行は研究IDが10月始めから、基本IDについては11月末から使用することが可能となる。ここでは、データの移行方法および移行後のファイルの使用法を説明する。

1. VM/CMSからUNIXへの移行

ログオンした後、CMSコマンド入力状態で次のコマンドを入力することによりファイル移行することができる。以下の例では、下線で示した部分が入力するコマンドであることを示す。また、英小文字は適切な名前に置き換えなければならないことを示す。

```
R;  
SFUX fn ft fm
```

fn, ft, fm はそれぞれCMSファイルのファイル名、ファイルタイプおよびファイルモードである。例えば A PLI A1 というファイルを移行したい場合には次のコマンドを実行すればよい。

```
R;  
SFUX A PLI A1
```

* 情報科学センター fujiki@isci.kyutech.ac.jp

このコマンド投入は FILELIST 画面から行くと便利である。その例を図1に示す。まず、FILELIST コマンドによりファイルの一覧リストを表示する。そこで、転送したいファイルの左にあるコマンドライン (CMD の欄) に、'SFUX' を入力し実行キーを押すとファイルが転送される。複数のファイルを送りたい場合には、送信したいファイルのうち最も上段にあるファイルのコマンド欄に 'SFUX' を入力し、他のファイルのコマンド欄には '=' (イコール) を入力するだけでよい。

```

TS5829  FILELIST AO  V 108  TRUNC=108 SIZE=20 LINE=1 COL=1 ALT=0
CMD  FILENAME FILETYPE FM  FORMAT LRECL  RECORDS  BLOCKS  DATE  TIME
TS5829  NETLOG  AO  F  255  12  3  9/03/91  9:20:02
TEST  EXEC  A1  V  9  4  1  9/02/91  10:09:21
PROFILE XEDIT  A1  V  26  21  1  7/31/91  14:30:04
SFUX  A  PLI  A1  V  80  1  1  7/31/91  14:25:05
LASTING GLOBALV A1  V  27  4  1  7/10/91  10:16:02
KANJI  DATA  A1  F  80  2  1  6/24/91  14:19:32
TESTISPF EXEC  A1  V  24  2  1  6/07/91  11:27:34
TESTISPF PANEL A1  F  80  15  2  6/07/91  11:16:42
TABLES  MACLIB A1  F  80  57  5  6/07/91  10:16:32
SFUXT  EXEC  A1  V  72  103  3  6/05/91  17:06:23
=  UNIXGATE EXEC  A1  V  68  146  5  6/05/91  17:04:36
SFUXT  BAK  A1  V  72  103  3  6/05/91  14:30:42
SFUXI  EXEC  A1  V  72  81  2  6/05/91  11:04:27
SFUX  DEST  A1  V  39  1  1  6/05/91  10:20:09
SFUXSET EXEC  A1  F  80  75  6  6/05/91  10:19:41
=  OLD  NOTEBOOK AO  V  79  211  9  5/15/91  18:45:05
ADDRESS TABLE  A1  F  80  7  1  5/15/91  10:37:59
1= HELP  2= REFRESH  3= QUIT  4= SORT(TYPE)  5= SORT(DATE)  6= SORT(SIZE)
7= BACKWARD  8= FORWARD  9= FL /N 10=  11= XEDIT  12= CURSOR

====>
X E D I T  1 FILE

```

図1 filelist 画面からのコマンド投入法

2. MVSからUNIXへの移行

MVS上のテキスト形式で保存されている順次データセットおよび区分データセットをUNIXへ移行することができる。TSOにログオンしTSOコマンド入力モードから、次のコマンドを入力するとデータセットが転送される。

```

READY
SFUX dataset

```

dataset には転送したいデータセット名を最初のユーザIDを省略して記述する。例えば、TS5829A.LIB.COMDPROC を転送したい場合には次のように入力する。

```
READY  
SFUX LIB.COMDPROC
```

区分データセットの特定メンバーだけを転送したいときには、次のようにメンバを指定してコマンドを実行すれよい。

```
READY  
SFUX LIB.JCL(IEHLIST)
```

3. 転送したファイルの使用方法

新システムでは、転送したファイルは新規ファイルと同様にファイルサーバ上で一元的に管理される。また、現システムのユーザIDと同じ名前のユーザID（学部学生の基本IDを除く）が予め登録されており、転送したファイルはこのユーザIDの下でアクセスできる。なお、新システムにログインする際のパスワードについては、別途お知らせする。

VM/CMSから転送したファイルは、ホームディレクトリに cmsfiles というディレクトリの中に収められる。CMS上でのファイル名を fn、ファイルタイプを ft とするとUNIX上でのファイル名は fn.ft となる。例えば APLI A1 を送信すると a.pli というUNIXのファイルができる。

MVSから転送したデータセットは mvfiles というディレクトリに入る。順次データセット (PS file) の場合はデータセット名と同じ名前でUNIXのファイルが作られ、区分データセット (PO file) の場合にはデータセット名と同じ名前のサブディレクトリが作成され、その中にメンバー毎のファイルが作成される。

図2に、転送によって作成されるディレクトリの構成を示す。

